

インターバンクの声（2015年1月29日）

日本時間の未明に発表された米連邦公開市場委員会（FOMC）の声明は、金融政策の正常化開始には「辛抱強く (patient)」とのフォワード・ガイダンスが維持された。ほぼ市場予想に沿った結果だったが、それでもユーロ、円、豪ドルなどの主要通貨は、声明が発表された直前直後に少し荒っぽい値動きを見せ、特に豪ドルは昨日のアジア時間に発表された自国第4・四半期の消費者物価指数後に上昇していた0.80ドルの水準から元の0.79ドル水準まで100ポイント近く下落してしまった。一番反応が鈍かったように見えたのがドル円だが、FOMCの声明内容が最近10日間ほど続いている117～119円レンジから抜け出させるほどのインパクトが無かったのが仕方ないところだ。ユーロが細かい上下動を繰り返しているが、こちらはFOMCの声明よりも、スイスショックの余震や揉め始めたギリシャ情勢による影響によるものだろう。2月は米FOMCや欧州中央銀行（ECB）理事会の開催もなく、各国経済指標の結果や政治情勢が相場を動かすことになりそうだ。

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。